

米軍レーダー基地の本格運用開始に抗議する声明

2014年12月24日

日本共産党京都府会議員団

団長 前窪義由紀

本日、京丹後市の米軍レーダー基地の本格運用が今週中にも開始されることが明らかとなった。

12月23日に京丹後市内で米軍レーダー基地反対の集会が850人の参加で開催されるなど「京都に米軍基地はいらない」との声は地元丹後をはじめ京都府内、近畿地方に大きく広がっている。米軍レーダー基地の本格運用の開始強行は、地元住民や府民、日本国民の強い反対の声を踏みにじるものであり、断じて許されない。

米軍レーダー基地は、アメリカの核戦略と安倍内閣がたくらむ集団的自衛権行使の最前線基地となり、憲法9条が禁じた戦争する国づくりの具体化にほかならない。米軍レーダー基地の本格運用は北東アジアの平和と安定にも逆行するものである。

また、基地建設の着工やレーダー本体の搬入などの重要な情報が隠され続けてきたことに加え、穴文殊などすぐれた景観や環境の乱暴な破壊、平穏な生活を破壊するディーゼル発電機による騒音の発生、米軍人軍属による6件の交通事故の発生と犯罪の恐れ、強力な電磁波による住民生活と環境、漁業への影響の不安など問題が山積したままであり、住民の安心安全が大きく損なわれてきたのである。

ところが京都府は、こうした地元住民や府民の不安を無視し、安倍内閣とともに米軍レーダー基地の建設に全面的に協力してきた。改めて、こうした京都府の姿勢に厳しく抗議するものである。

日本共産党京都府会議員団は、地元住民や広範な府民のみなさんとともに、安心安全を損ない、戦争準備の米軍レーダー基地を許さない運動に全力で取り組んできたが、今後も京都から基地を撤去するために共同の輪を広げたたかい抜くことをここに表明するものである。